

### 米国生産者の語る収穫事情

米国の生産者は2016年秋の粗粒穀物の収穫を終えました。今年は天候とその関連条件が収穫時期や単収について大きな役割を果たしました。

アメリカ穀物協会（USGC）は今年初頭、米国各地の大麦やトウモロコシ、ソルガムきびの生産者に作付活動について情報を提供してくれるよう依頼しました。今月号の *Grain News* では、こうした生産者に収穫の状況と2017年への準備について伺いました。

生産者にとって、全般に収穫の間の天候は良好で、単収は各地域の環境ファクターや条件に見合ったものでした。各生産者は概ね、世界市場向けに生産した高品質の粗粒穀物に満足しています。

### 大麦

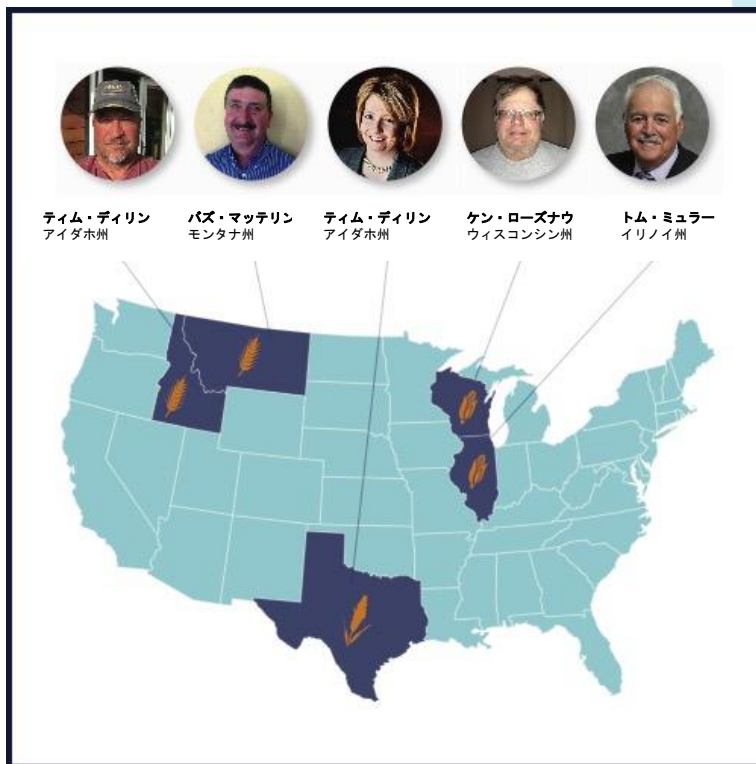
バズ・マッテリン氏はモンタナ州の三代目の農家です。マッテリン氏は1人の若者と一緒に作業しながら、引退するときは100年近い歴史があるこの農場を引き継いでもらうために指導しています。ミズーリ川上流近くにあるこの農場ではモルト大麦やテンサイ、デュラム小麦、油糧種子を栽培しています。

### 今年の収穫期は例年通りでしたか？

「収穫時期は例年8月中旬から9月中旬です。2016年の収穫は非常に早く、開始したのが8月第1週目で、数週間で終わりました」

### どのような収穫用機械を使用していますか？

「ジョンディア製です。このメーカーのディーラーの娘と結婚したものですから。この農場は非常に広いので、ディーラーもずいぶん遠くなってしまいます。それにここ数年ディーラーの統合が進んでいます。そのため部品の入手やサービス呼ぶのが現在心配の種になっています」



ティム・ディリン  
アイダホ州



バズ・マッテリン  
モンタナ州



ティム・ディリン  
アイダホ州



ケン・ローズナウ  
ウィスコンシン州





トム・ミュラー  
イリノイ州

### U.S. Grains Council

Email: [grains@grains.org](mailto:grains@grains.org)  
[www.grains.org](http://www.grains.org)

 @usgc

 /usgrainscouncil

 /usgrainscouncil

### U.S. Headquarters

20 F Street NW  
Suite 600  
Washington, D.C. 20001  
207.789.0789 TEL  
202.898.0522 FAX

### アメリカ穀物協会

#### 日本事務所

〒105-0001  
東京都港区虎ノ門1-2-20  
第3虎の門電気ビル11階  
TEL: 03-6206-1041  
FAX: 03-6205-4960  
EMAIL: [grainsjp@gol.com](mailto:grainsjp@gol.com)

Developing  
Markets.

Enabling  
Trade.

Improving  
Lives.

次ページに続く

### 単収や契約はどうでしたか？

「我々はアンハイザー・ブッシュ社の一部門であるBusch Agricultural Resources, LLCと契約しています。シカゴ商品取引所の春小麦の先物価格に基づいて秋に契約します。昨年の契約はうまくいきましたが、来年の契約はまだです。少しでも利益が得られたらいいのですが」

### 今年の生育期には例年と異なることはありましたか？

「今シーズン初期は乾燥していましたが、6月頃になるとちょうどよいくらいの雨が降りました。最適な時期にぴたりとやみ、ちょうど必要な時に長い乾燥期となりました。穏やかで温暖な冬になり、圃場に出られて2017年の準備がはかどればよいと思っています」

### 来年の作物あるいは生育期間に向けて収穫後はどういった準備を行いますか？

「不耕起農法あるいは最低耕起農法を可能な限り採用していますが、テンサイから大麦に転作するときは土地を耕さなければなりません。テンサイ収穫用の機械が土壌に畝を残すからです。そうでない場合は、トラクター鋤で耕すだけです。窒素肥料は分割して散布します。まず秋に肥料を撒き、5月か6月に土壌試験の結果を見て再び散布します」

### 特に海外の顧客に知ってもらいたいことは何ですか？

「この秋、貿易視察団としてコロンビアへ行きクラフトビール業者に会うことができました。世界のバイヤーと関係を築く取り組みは米国の粗粒穀物生産者の優先課題です」

### アイダホ州ティム・ディリン氏

ティム・ディリン氏はカナダとの国境に近いアイダホ州内で、100年の歴史を持つ農場を営んでいます。ディリン氏の父親は82歳になる現在も元気に農場に出ています。約500エーカー（202ヘクタール）の土地で小麦に加え、飼料用や食用、モルト用の大麦を栽培し、レッドアングス種の肉牛も家族で飼育しています。

### 今年の収穫期は例年通りでしたか？

「例年、8月中旬から9月にかけて収穫します。今年の収穫は順調でとくに大きな出来事はありませんでした。8月に収穫を始め、それが終わって9月末までにはホワイト冬小麦を再度作付しました」



アイダホ州にあるティム・ディリン氏の農場での大麦の収穫

### どのような収穫用機械を使用していますか？

### 米国产作物報告書をご覧ください

米国产作物業界の正確かつ最新の情報が米農務省（USDA）のホームページでご覧いただけます。政府、業界、メディアが参照するのは、生育期間中（4月から11月）毎週発行される作物進捗報告書です。

USDA 国立農業統計局（NASS）は、作付面積、作付と収穫の進捗状況、作柄、収穫面積、単収など、米国产作物の生産データを提供しています。

さらに、米国で栽培されているほぼすべての作物についての作物生産報告書をはじめ、作物生産の年間サマリーも提供しています。こうした生産報告書は毎月更新されます。過去の実績については、作物報告書を1964年までさかのぼってご覧いただけます。

USDA NASS は最新の報告書が発表され次第その電子版をお届けするメール配信サービスを提供しています。報告書はPDF、テキスト、ZIPファイルで容易に閲覧できます。クイックサーチ機能があり検索語に関連した個々の情報を読むことができます。

詳細は、[www.nass.usda.gov](http://www.nass.usda.gov) をご覧ください。

次ページに続く



「一般的なジョンディア製穀物用コンバインを使用しています。そのディーラーがここから一番近く、よいサービスが受けられ部品を手に入れることができます」

#### 単収や契約はどうでしたか？

「今年は大麦を約400エーカー（161.87ヘクタール）作付しました。それがすべて食品用グレードに達したので契約を満たすことができました。この農場でも州全体でも単収はとても良好でした。この秋は大量の作物を出荷することができました。アイダホ州はモルトグレードの合格率が高くなりました」

#### 今年の生育期間で例年と異なることはありましたか？

「非常にいい天候で、至って正常でした。小麦にはいくらか多めの窒素を散布しましたが、大麦には変わったことは何もありませんでした」

#### 来年の作物あるいは生育期間に向けて収穫後はどういった準備を行いますか？

「我々は輪作をしているので、冬小麦の後、一部の区域には大麦、別の区域にはキャノーラを作付けします。大半の圃場には3年毎に大麦を作付けします。圃場を小麦に戻すとき自生の大麦が問題になることがあるので、次の作付の前に耕起しそれらの除去に重点をおいています」

#### 特に海外の顧客に知ってもらいたいことは何ですか？

「今年アジアからの視察チームの訪問を受けたことが非常に素晴らしかったことです。食品用大麦の需要は上向き始めています。我々が契約している企業は、もっと生産者を見つけて生長しようとしています。そのような需要に応えるためにできることはすべてやりつつ、どのように栽培するか、収穫後どのように扱うかといったことなど、生産物の品質には引き続き注意を払うようにします」

#### トウモロコシ

ウィスコンシン州 ケン・ローズナウ氏  
ウィスコンシン州にあるケン・ローズナウ氏の農場は、妻と息子との家族経営です。1,100エーカー（445ヘクタール）の農場でトウモロコシ、大豆、小麦、牧草を栽培し、肉牛も飼育しています。

#### 今年の収穫期は例年通りでしたか？

「通常トウモロコシは10月に収穫し、11月に入っても続きます。今年例年より暖かくて、信じられないことにTシャツを着て収穫しました。この辺りの外の作業ではブーツに手袋、分厚い上着と5枚の重ね着で寒さを凌いだことが何度もあったのに」

#### どのような収穫用機械を使用していますか？

「どこか特定のブランドにこだわってはいません。いろいろなものを少しずつ使っています。コンバインはジョンディア製9560STSです。これにはGPSがついていて、データはすべてデータカードに記録されます。数字を見ているとすぐに画面に釘付けになってしまいます」

#### 単収や契約はどうでしたか？

「そのコンバインの単収モニターによると、周辺地や湿潤地帯ではエーカー当たり170ブッシェル（ヘクタール当たり10.67トン）、圃場の主要部分ではエーカー当たり約200~225ブッシェル（ヘクタール当たり12.56~



トルコの視察チームがウィスコンシン州のケン・ローズナウ氏の農場を訪れました。

次ページに続く

14.13トン) でした」

#### 今年の生育期間で例年と異なることはありましたか？

「暖かい天候だったので、トウモロコシは成熟し圃場で自然に乾燥させることができました。収穫開始時点での試験では、水分含量は23~24パーセントでした。この時期は30パーセント以上が通常です。その後の試験で約20パーセントになりましたが、これは厳しい冷え込みを経て11月後半の感謝祭になるまで、通常は目にしない数値です。ですから品質がよくないはずがありません」

#### 来年の作物あるいは生育期間に向けて収穫後はどういった準備を行いますか？

「トウモロコシ、豆類、冬小麦という輪作をしていて、通常、トウモロコシの後に被覆作物は植えません。この地域では被覆作物に十分な生育期間がとれないというだけのことです。トウモロコシの後は施肥作業を行います」

#### 特に海外の顧客に知ってもらいたいことは何ですか？

「非常に優れた作物を作っていること、そして購入を希望するお客様のために生産物は十分にあるということを知っていただきたいです。世界のバイヤーと取引ができて嬉しく思っています。この秋、トルコから視察チームが来てくれました。実際に会って、世界は狭いと改めて実感できるのはいつでも嬉しいことです。皆求めることは同じだと思います」

#### イリノイ州 トム・ミュラー氏

トム・ミュラー氏はイリノイ州北西部でトウモロコシと大豆を栽培し、肉牛を飼育しています。夏場には臨時作業者を雇い入れています。ミュラー氏は祖父が暮らした農場内の家で育ちました。

#### 今年の収穫期は例年通りでしたか？

「通常収穫は、10月初旬、トウモロコシの水分含量が適した状態になり次第開始し、11月末位には終わります。今年はやたらと暖かく、予定よりかなり早めになりました。気温が華氏80度（摂氏27度）になる日もありましたが、これは天候の変動が極端に大きくないコーンベルト地帯の北部ではめったにないことです。10月の平均気温は例年より華氏で5度（摂氏で2.8度）高くなりました。この秋はとて暖かく乾燥していたので、収穫時にトウモロコシの水分含量を心配する必要がありませんでした。収穫時の水分含量は約16パーセントでしたので、機械で乾燥させることなくファン付きの保管ビンに直接入れることができました」

#### どのような収穫用機械を使用していますか？

「ここはジョンディア社の工場に近くディーラーもいくつかあるので、そこの機械を使用しています。コンバインは古い機種で、9550です。今年の夏、しっかり調整してもらうため修理に出したので、秋には問題なく動いてくれました」

天候はほぼ完璧でした。降るべき時に十分な雨量があり、シーズンを通して作物には全く天候ストレスがかかりませんでした。

— イリノイ州 トム・ミュラー氏

#### 単収あるいは契約はどうでしたか？

「今年の単収はまずまずです。エーカー当たり平均で225~230ブッシェル（ヘクタール当たり13.5~14.44トン）でした」

#### 今年の生育期間で例年と異なることはありましたか？

「天候はほぼ完璧でした。降るべき時に十分な雨量があり、シーズンを通して作物には全く天候ストレスがかかりませんでした。確かに作物から最も多くのものが得られた年でした。今年は窒素を分割して散布しました。最初の散布を昨年秋に行い、トウモロコシがブーツの高さほどになった頃、窒素50ユニットの側方散布を再度行いました。乾燥尿素剤を、蒸発量を下げる阻害剤とともに用いました」

「肥料会社の協力を得て試験区画に作付を行いました。様々な区画を作り、1つは通常の120ユニットと安定剤、もう1つは160ユニットと安定剤、80ユニットと安定剤、120ユニットと安定剤不使用としました。正確な数字はまだ出ていませんが、収穫中のコンバインのデータから言えることは、窒素が多い区画の方が単収がよく、安定剤不使用の区画の単収は低いということです。採用している方法がうまくいくかどうかを知るにはいい方法でした」

[次ページに続く](#)



来年の作物あるいは生育期間に向けて収穫後はどういった準備を行いますか？

「トウモロコシの収穫後の畑に牛を放牧して収穫残さを食べさせています。そうすることで給与しなくてはならない冬の飼料を減らすことができます。次の年にトウモロコシを作付する圃場には窒素を供給するため無水アンモニアを散布します。以前被覆作物としてライ麦とカブを作付したことがありますが、今年には行いませんでした。この天候が続くと知っていたら、もっと真剣に被覆作物を取り入れようとしていたでしょう。来年のために土壌の窒素を保ってくれ、土壌流出を防いでくれますから」

特に海外の顧客に知ってもらいたいことは何ですか？

「選挙も終わり、多くの人のためになり農業にとって有益な貿易協定の交渉が再び始まるとよいです」

## ソルガム

### テキサス州 キャシー・ブローマン氏

テキサス州北西部のパンハンドル地方にあるキャシー・ブローマン氏の農場は8,320 エーカー（3,368 ヘクタール）に及びます。家族で保険代理店も所有・経営しています。ブローマン氏の4人の娘も農場経営に従事しています。ドライランドソルガム、ふつうのグレイン・ソルガムそしてソルガム・サイレージを少量の小麦とともに栽培しています。

全米ソルガム・チェックオフ・プログラム（USCP）によると、ソルガムベルト全域の今年の収穫はちょうどよい時期に行われました。ソルガムの収穫は独特で、テキサス州南部で6月初旬に始まり、徐々に北上してサウスダコタ州で10月下旬に終わります。

今年の収穫期は例年通りでしたか？

「例年収穫が終わるのは11月10日頃ですが、今年はかなり楽な年で、10月25日には終わりました。非常に素晴らしい天候に恵まれました」

どのような収穫用機械を使用していますか？

「トリンブル製GPSをそなえたケースIH製です。転回させれば、後は自動的に進みます」

単収や契約はどうでしたか？

「サトウキビアブラムシ対策のため3回散布を行いました。サイレージ用ソルガムの地上から3分の1の部分には残ってしまいました。散布が葉陰までは届かなかったのです。種子用ソルガムでも同じことが起こりました。単収は通常よりエーカー当たり2,000ポンド（ヘクタール当たり2.22トン）減少し、エーカー当たり4,500ポンド（ヘクタール当たり44.88トン）でした。それを除けば、植物体としては見栄えよく、穀粒もきれいです」



2016年に刈り入れされたソルガムは記録的な収量となりました。

次ページに続く

今年の生育期間で例年と異なることはありませんか？

「我々は作付が遅かったのでよかったです。この辺りの他の農場では18日間、華氏100度（摂氏38度）を超える熱指数を記録した天候に対処しなければなりません。これで受粉が大変なことになりました」

USCPIによると、今年の天候により、多くの生産者にとって生育期間にいつもと違うことが起こりました。雨量の増加は単収という点では非常に有利でしたが、問題も発生しました。水分含量が高くなったため害虫が増えたのです。それでも生産者は効果的に作物を管理し、品質を保ちながら収量の損失を回避することができました。



2016年に刈り入れされたソルガムは記録的な収量となりました。

来年の作物あるいは生育期間に向けて収穫後はどういった準備を行いますか？

「冬小麦を作付しましたので、現在は事務所に戻り、来年の数量を予測したり、価格や契約を確定したり、アブラムシの問題に対処するためより優れた品種や解決策について勉強したりしています」

USCPの報告では、地域にもよりますが、来年の豊作を確かなものにするため、秋と冬の間には耕起や施肥といった管理作業をする予定の生産者もいます。これ以外にも、来年度の作付を決定するための準備をしています。こういった需要があるか市場を注視し、2017年に備えて作付することでエンドユーザーのニーズに応えようとしています。

特に海外の顧客に知ってもらいたいことは何ですか？

「我々には高品質の穀物があると信頼していただけたいと思います」

USCPは、農業界では今年もまた記録的な収量が得られ、この上昇傾向は継続する見込みであると付け加えています。■